

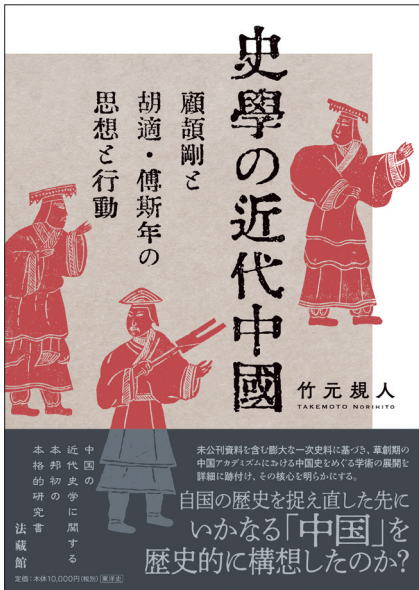
# 史学の近代中国

顧頡剛と胡適・  
傅斯年の思想と行動

たけもとのりひと  
竹元規人「著」(福岡教育大学教育学部准教授)

A5判・上製カバー・七二八頁・本体一〇、〇〇〇円＋税

2025年3月刊行



長大な歴史をもつ中国の知識人は自国の歴史をいかに捉え直し、いかなる「中国」を歴史的に構想したのか。胡適・顧頡剛・傅斯年の学術思想と営為に即して考察する。中国における近代史学の展開に関する本邦初の本格的な研究書。

## 序章

- 第1節 本書の問題設定
- 第2節 本書の方法
- 第3節 本書の構成

上篇 顧頡剛史学の形成に関する新研究

- 第1章 史学の論理と方法
- 第1節 目録学・哲学・史学
- 第2節 進化・層累・転変——歴史叙述の論理
- 第3節 史料論的検討

第2章 同時代日本の史学との関係

- 第1節 崔述の「再発見」
- 第2節 白鳥庫吉・内藤湖南との比較
- 中篇 1928年前後における胡適・顧頡剛・傅斯年の学術活動

- 第5章 学問の方法——胡適と顧頡剛の分岐
- 第1節 古典文献と「文法」
- 第2節 治学の方法と材料
- 第3節 「物質文明」への傾倒
- 第4節 易繫辭伝と疑古・信古の問題
- 小結
- 下篇 史学家の思想と行動

第6章 「中国」の構想と古代史研究

- 第1節 歴史と言語
- 第2節 考古学の意味
- 第3節 上古史研究と疆域・民族観
- 第4節 「中華民族」をめぐる議論
- 1939年・昆明

第3章 国民革命前後における三者の関係

- 第1節 『古史辨』出版から中山大学招聘まで
- 第2節 中山大学における同床異夢
- 第3節 顧頡剛と傅斯年の決裂と北上

第7章 「学術社会」の構築

- 第1節 「学術社会」をめぐる思想・制度・行動
- 第2節 中央研究院第一次院士選挙（人文組）の構造

第4章 顧頡剛と傅斯年の学術構想・活動

- 第1節 学術構想と講義・著作
- 第2節 中山大学語言歴史学研究所から中央研究院歴史学研究所へ

終章

文献一覧／あとがき／索引／中文目次・要旨／英文目次

【著者略歴】1980年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学）。現在、福岡教育大学教育学部准教授。専門は中国近現代思想史・学術史。研究業績として、本書の元となった諸論考のほか、『陳独秀文集1 初期思想・文化言語論集』（共訳、平凡社、2016年）、『文史通義』内篇一、二、四、五譯注（共訳、『東方学報』第91、93、96、97冊、2016～2022年）などがある。

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458  
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

東洋史

注文書	
(書店名)	
様冊	ご担当
法藏館	竹元規人著
一〇、〇〇〇円＋税	史学の近代中国
住所	顧頡剛と胡適・傅斯年の思想と行動
お電話	ISBN978-4-8318-7787-1 C3022
お名前	